

2021年度の総会・セミナーが終わりました

5月29日(土)2021年度の通常総会並びにOECAセミナーがZOOMを使って開催されました。

【通常総会】

午後1時より、OECAの通常総会が開催され、会員86名(3月31日現在の会費納入会員数)で、当日のZOOMによる参加者56名に加え、事前の議決権行使書提出者8名、委任状提出者数12名、合計76名となり、会員の過半数(43名)以上となり総会は成立いたしました。

第1号議案から、第4号議案まで、ZOOMの投票機能を利用して、採決が行われ、満場一致の結果を得て、無事終了いたしました。

【OECAセミナー】

午後2時30分より、OECAの会員に加えて、大阪環境ネットのメンバーにも声掛けさせていただき、60名の参加者を得て、実施されました。

講演①テーマ：2050年カーボンニュートラルを達成するための電源構成について

講師：資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 青田 優子 様

講演②テーマ：海外及び日本における地層処分の最新動向

講師：原子力発電環境整備機構(NUMO) 富森 卓 様

環境落語：環境配慮型葬儀(地層処分を盛り込んで)

落語：大阪環境カウンセラー協会 満腹亭 肥満(飯田 哲也 氏)

<概要>

○カーボンニュートラルの政策を踏まえた情報が整理されていてとても分かりやすい内容であった。

○事前に送られてきたレジメを見て「難しそう!」とひるんでしまう自分でしたが、すぐわかりやすく説明していただいたので、言葉だけ知っていた「カーボンニュートラル」や「地層処分の文献調査」についてしっかり、勉強できた。

報道では、わかりづらかったところをお話しいただけて良かったです。

また、落語もキャニスターやベントナイトでくるんで地層処分する方法をさりげなく、盛り込んでくれたので、面白かったという意見がありました。

<質疑の内容>

1. 再エネの課題に記載のある「慣性力の確保」とは何か。

○慣性力とは、火力・原子力等の同期発電機が有している瞬間的な需給の変動に対応する周波数調整力のことをいう。太陽光発電等の再エネ電源は回転数を維持するために必要な回

転子が無いので慣性力を持たない。

2. カーボンニュートラルは、森林の CO2 吸収も考慮するという理解でよいか。その場合何トンと計算しているのか。

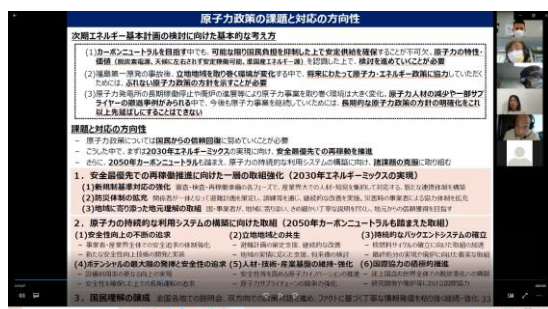
○林野庁の資料では、日本の森林による CO2 吸収量は、約 4,300 万トン（2019 年度）となります。

○森林による CO2 吸収は、2050 年カーボンニュートラル実現に貢献するものと位置づけられています。※具体的な数値は明示されていません。

3. 医療などで発生する低レベル放射性廃棄物は、どのようなところで処理されているのか？

○放射性廃棄物の種類に応じて処分方法が、区分されています。原子力発電所の運転に伴い発生した放射能レベルの比較的低い廃棄物については、平成 4 年より、青森県六ヶ所村にある日本原燃(株)六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターで埋設を開始しています。

<セミナーの様子>



以上